

## Georgia グルジア渡航 II

2012年6月13日(水) ~ 30日(土)

1週間のホームステイでホストファミリーと交歓した後、ED・Kateさんの献身的な案内で、1週間の観光バスツアーに出かけました。“黒海で水泳をした同日にコーカサスでスキーができる”ほどの変化に富んだ豊かな自然と、人類最古から現在まで東西の狭間で破壊と再生が複雑な層をなす史跡とに、驚嘆し満喫する旅でした。



ハラガウリ国立公園で。ここにも十字架が立っている。

軍用道路は大コーカサスへ向かって。ここは国境付近。



### グルジア 観光ツアー

- |                  |  |
|------------------|--|
| トビリシ             | 国会議事堂 / サメバ教会<br>メテヒ教会 / 温泉公衆浴場<br>シオニ教会 / 国立歴史博物館<br>野外民族博物館/サルデニ通り |
| ムツケタ             | スヴェティツホヴェリ大聖堂<br>ジュヴァリ修道院  |
| ゴリ               | ゴリ砦<br>ウプリスチケ洞窟都市  |
| ボルジョミ            | ハラガウリ国立公園<br>グリーン修道院   |
| クタイシ             | バグラティ大聖堂<br>ゲラティ修道院 / アツクリ村<br>サタフリヤ国立公園                             |
| バトウミ             | 黒海 / 市内観光<br>ゴニオ要塞<br>バトウミ植物園  |
| カズベキ             | 軍用道路 / コーカサス山脈<br>ツミンダサメバ教会<br>ロシア国境付近                               |
| イスタンブール<br>(トルコ) | ブルーモスク<br>アヤソフィア<br>トプカプ宮殿、<br>海峡クルーズ                                |

# Tbilisi



ムトゥクヴァリ川沿いに広がるグルジアの首都トビリシは、この国唯一の百万都市で政治経済の中心だが、近代高層ビルよりも寺院や要塞など歴史を背負った建物が目立つ。ホストのほとんどはこの都市に住み、市の中心部の共和国広場が集合場所になった。

トビリシとは“温かい”という意味だそうで、5世紀ごろイベリア王国の王がここへ鷹狩りに来て温泉を発見。この土地が気に入って町をつくり、王の没後、遺言通りここへ遷都したと言い伝えられている。

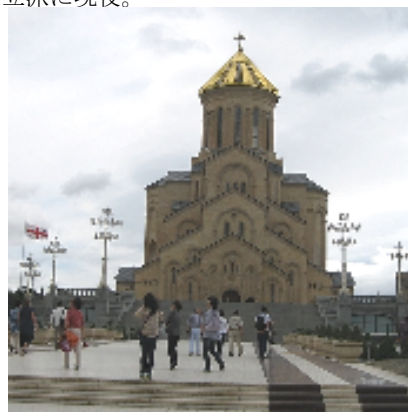
## 国会議事堂

美人ガイドが内部をくまなく案内してくれた。ここは中庭。今秋にはクタイシ市に移転する。



## 公衆浴場ハمام

ローマ時代からの浴場は、その後トルコ風呂となり、いまでも硫黄温泉の公衆浴場として立派に現役。



## 2つの博物館を訪問

ジョージア国立歴史博物館には紀元前の金や宝石の工芸品があり、ユーラシア最古の人間の頭蓋骨も所蔵していて、この国が古代歴史の重要な鍵を握っていることが窺えた



## 寺院・教会にそれぞれの歴史

サメバ寺院は南コーカサスで一番大きい教会で、グルジア正教1500年を記念して建立され2004年に完成。サメバとは三位一体の意。シオニ大聖堂はグルジア正教の総本山で6世紀に創建。聖ニノの十字架がここにある。

メテヒ教会は13世紀にモンゴルに破壊された後、デメテル2世によって再建された建物で、ロシア帝政時代に監獄として使われ、ゴリキーがここに幽閉されたことがあるそうだ。

侵略戦争に曝された歴史の中では、教会や修道院は要塞を兼ねていたから、



小高い丘の上にあることが多い。私たちは以後何度か山登りを体験することになる。

そこには支配者が変わるたびに破壊されてなお生き残る文化の強靱さを感じる。



もう1つは野外民俗博物館（写真）。国内各州から集められた昔の家屋や生活用品などが、広い敷地内に点在する。常に周囲の攻撃から身を守る国のベビーベッドがポータブルなもの胸を打つ。452個の木片で釘を使わず組み合わせ、均等な採光を図った天窓には驚嘆。写真右はメディアの取材を受ける大西会長。



## 露天みやげ物店

大通りの歩道に沿って300mはあるのか、その後ろの公園の沿道にもはみ出して、露天商が店を出している。家具や熊の毛皮から小さなお土産品まで何でもあり。無名の画家の作品も数多く展示されていた。私たち日本人に好奇の目は投げかけても押し売りすることはなく、どこかのんびりした商売。

トビリシから北へ 20km のムツヘタは、街全体が世界遺産に指定されている古都。BC 3 世紀頃から AD5 世紀頃にかけて栄えたイベリア王国の王が首都をトビリシに移すまで、ここが王国の中心だった。

聖ニノがイベリアのミリアン王をキリスト教に改宗させて 337 年キリスト教を国教とした。牧歌的な風景の中に佇む大聖堂や修道院には、それ以来の長い歴史が刻まれている

# Mtskheta



## ジュヴァリ修道院

写真上の後方、丘の上に立っているのがジュヴァリ修道院。Jvari とは十字架のことで、6 世紀に建立されたもの。上から見て十字架型になっている建築は、その後の教会建築の見本となった。



## スヴェティツホヴェリ大聖堂

グルジア最古の木造聖堂として 4 世紀に建立された。この場所には伝説があって、キリストが処刑されたときムツヘタ出身のエリアスがキリストの着衣を持ち帰ったところ、その衣に触れたシスタが聖なる力で失神し、埋葬された場所から 7 本の木が生えてきた。その場所にこの大聖堂が建てられたという。

スヴェティツホヴェリとは“生きている柱”という意味。



## 街並みも世界遺産の一部

この街では民家も道行く聖職者も観光客も絵になる風景。レストランではこの国特有のパンの焼き方（熱した窯の周囲にパンの生地を貼り付けて焼く）を実演して見せ、焼立てのパンを出してくれる。



旧ソ連の指導者スターリンの生誕地として知られるゴリ。市名は「丘」の意味で、ゴリ砦に由来し、丘の上に立つ砦は〔写真下〕考古学的に紀元前 3~2 世紀とされる。ここには Uplistsikhe cave town という洞窟都市跡があり、BC 2 000 年頃からのものと考察され、1 万人近くが生活していたものと思われる。

# Gori



古代洞窟都市には、祭壇や居間ばかりか、劇場、ワイン醸造所、パン焼き場、牢獄などの跡もあり、古代への不思議なタイムトラベルだった。

# Borjomi

緑に包まれた美しい自然保護区ボルジョミはミネラル豊富な温泉地で、かつては聖地だったが、いまはリゾート地としてホテルの建設ラッシュ。



## 聖水の恵み

修道院跡もあるこの地の原水は(写真右)身体によい恵みの聖水だった。いまはボルジョミ・ブランドで世界 50 カ国に輸出されるミネラルウォーターとして、この国の輸出高トップ。やはり聖水の恩恵？



## Kharagauli 国立公園

ハラガウリは世界で 12 あるパン・パークの 1 つ。私たちはよじ登るような険しい箇所もあるワイルドなハイキングコースを完歩した。ここはロシアのアレキサンダー 2 世が弟に与えた土地だったため、ロシアから守られたという経緯もある。



## グリーン 修道院

森の中にひっそりとたたずむ修道院は 4 世紀ごろの建物。祭壇にドクロがあつてドキッとした。そばの小川の石が赤いのは、昔多くの僧侶がここで殺害され、その血が染み付いて取れないという不気味な伝説がある。



# Kutaisi



グルジア第 2 の都市といっても、クタイシは 20 万人そこそこ、リオニ河畔の静かな町だが、グルジアの西と東とは異なる歴史を歩んでいて、ここ西グルジア中心都市の栄光の歴史は紀元前に遡る。BC 6 ~ 2 世紀、コルキス王朝の首都だったことは古代ギリシャの「アルゴ船探検隊」にも見られる。また 10 世紀にクタイシから出たバグラト朝は東西グルジアを統一し、タマル女王の頃(12~13 世紀)西アジアの強国だった。いまこの都市の活性化のため、近々国会議事堂がここへ移転する。

## ゲラティ修道院

丘の上に立つバグラティ大聖堂とゲラティ修道院が世界遺産。グルジア最盛期の 12 世紀初頭に修道院兼アカデミーの中心として創立。その後はオスマントルコやロシアの攻撃で破壊と修復の歴史を辿った。この国の多数の壁画やイコンも同じ運命を辿ったが、残された聖像に信者たちは口づけして敬虔な祈りを捧げる。



## サタブリア 国立公園

恐竜公園として親しまれ、園内の鍾乳洞には恐竜の足跡の化石がある。草食・肉食両方の恐竜の足跡が同時に見つかったのはここだけ。また蜂がこの石灰石に巣を作ったことが養蜂のルーツとなったとされている。



## アツクリ村の武勇伝

丘の上の砦址はオスマントルコと戦って大軍を押し返したという武勇伝を持つ。この橋はリオニ川を初めて車が渡った橋。



# Batumi

この国の西端は黒海に面し、海岸線に沿ってリゾート地が広がっている。その中心のバトゥミは、アジャラ自治区の首都であり、この国最大の港町でもある。夕焼けどきにこの街に着いたら、黒海が赤く染まる美しい光景に出会えた。



## 黒海

紀元前の昔から何度となく戦いを飲み込んできた黒海。いまは静かに水を湛えていた。私たちは遥か遠いこの海で、少年に返って海に石を投げ、少女に返って波と戯れた。



## バトゥミ植物園

カリフォルニアに次ぐ世界最大級の植物園がバトゥミ市の北9kmにある。気候的にも地形的にも、亜熱帯から寒冷地まで世界の広い地域に生息する豊富な植物が見られる。日本にいるような錯覚がおこる一画もあり、また、橋になった倒木から再び木が生えている（写真）光景に、樹木の強い生命力を感じた。



## ゴニオ要塞

紀元1世紀の古代ローマの文書に記載されているゴニオ要塞の遺跡が、トルコとの国境近くにある。当時要塞は単に守るだけでなく、一種の文化施設だったようで、上下水道の跡〔写真〕なども発掘され、考古学的にも注目されている。



# Kazbegi

5000m級の山々が雪を頂く大コーカサス山脈の中腹のカズベギは、トビリシから軍用道路を北へ150kmの地点。この道路がロシアとグルジアを結ぶ大動脈で、ロシアがコーカサス地方への勢力伸張のために整備した。私達はその20km手前のスキースキーリゾート地グダウリで泊った。



## ツミンダサメバ教会

カズベギから山登り2時間、でなければジープに揺られて凸凹の坂道を登る。山頂には14世紀に建てられた教会兼要塞が聳える。



女性は礼拝にスカーフとロングスカートを着用のこと。



## 羊のお通り

軍用道路を走行中の車も、羊の大群の横断中はしばし待機。放牧地への行き帰り、羊も牛も“みんなで渡ればこわくない”のかわがもの顔で、ゆうゆうと。



## 大コーカサス山脈最高峰を背に

5040mのカズベギ山をはじめコーカサス最高峰の山々が真上に迫る壮大な自然の絶景に酔う。ここに詩を残したプーシキンもこの風景に感動をしたのだろう。ギリシャ神話にプロメテウスが人類に火を与えたことでゼウスの怒りにふれ、カズベギ山に閉じこめられたという伝説もある。



## 国境近くにグルジア正教会

ロシアとの国境も間近の軍用道路沿いに、建てられたばかりのグルジア正教の教会。

# さよなら グルジア



私たちのバスツアーをずっと通して付き合ってくださった頼りになる腕のいい運転手さん。一時エンジンの不具合のときなどバスの下にもぐって奮闘してくれました。お疲れ様でした。

誰一人現地語のわからない私達一行を、一人でフルアテンドし、突発的な出来事にもその都度適切に対処してくださったKateさんには頭が下がります。ささやかなプレゼントと共に、ありがとうございました。



多くのホストが、仕事を持っているはずなのに、空港まで見送りに駆けつけてくれました。日本への出国には色々条件もあるようですが、想いは同じ、日本での再会です。

# 飛んでイスタンブール



グルジアへはトルコのイスタンブールを経由する。このアジアとヨーロッパに跨る 1300 万人メガシティは、東と西が、過去と現在が混交し、多国籍の雑踏の中で、私達はグルジアにない開放感を味わった。そんな“トルコの休日”のアルバム。



▲通称ブルーモスクと呼ばれるイスラム教の寺院。←青を基調にした内部の装飾の美しさでそう呼ばれた



▲イスタンブール一番の繁華街イスティクル通りは新市街側にあり、往路で立ち寄った。



▲1457年メフメット2世時代に完成したトプカプ宮殿といえはオスマントルコの象徴。スルタンの住居であり、国の政治の中枢でもあった。この中門は儀礼の門と呼ばれる入場口。  
▼宝物館には 86 カラットのダイヤモンドや世界最大のエメラルド、金の王座など、贅の限りが。



▲ニカの乱で焼け落ち、537年に再建されたアヤソフィア大聖堂はビザンチン美術の最高傑作と言われている。オスマンの征服でモスクに変えられ、モザイク画のイコンは漆喰で塗られ、十字軍で荒らされたが、なおビザンチンの香りを放つ。現在はアヤソフィア博物館に。



▲イエレバタン地下貯水池は“地下宮殿”とも呼ばれる幻想的な空間。3～4世紀に作られ、ユスティアヌス帝の6世紀に再建された。336本の大理石の柱が林立し、その2本の土台にはメドゥーサの頭が使われている。魔除けという説もあるが、領内各地の神殿などから集めた建材の流用で、横向き逆向きの頭も単に高さ合わせの説が有望。



▲通称グランドバザールと呼ばれる屋根付き市場(カバル・チャルシュ)は、かつて奴隷や金銀も取引された東西交易の中心だったが、いまは4千店以上の主にみやげ物店がひしめく。気をつけないと迷子になりそう。



▲日が暮れるとレストラン街はこの賑わい。屋内も屋外も光、音、臭い、人・人・人。多国籍メガシティを実感！



▲黒海とマルマラ海を結ぶボスポラス海峡をクルーズ。身内だけで異国の海風に吹かれて、一番リラックスした時間だったかも。